

大阪と福岡で「島の逸品」を情報発信

本誌編集部

各地域の特色やその年のトピックスをテーマに、離島地域と都市との交流の促進を図り、東京に限らず主要な都市において離島の魅力の情報発信を行

なう場を設け、都市に住む人たちのニーズ把握などを通して、今後の離島地域の活性化に役立てるために開催を続けてきた「しまづくりキャラバン」。

昨年度までに引き続き、島で生産された多様な特産品、物産品などの「島の逸品」に焦点を当て、今年度も福岡と大阪で開かれた食品業界向け展示商談会に出席した。

また、二〇二五年のしまづくりキャラバンは、「大阪・関西万博」の会期中に、島と島の産品を宣伝する大規模なイベントとして開催する予定として

おり、今年度はそれに向けた産品・PR手法などのブラッシュアップ期間としても位置づけた。

意欲あふれる奄美からの出展者

日本復帰七〇周年の節目を迎えた奄美群島からは両会場への積極的な参加があったが、そのほとんどの事業者が、物産フェアなどでの販売経験はあるものの、このようなバイヤー向け展示会は初めてとのことだった。参加者によっては、素材や製法にこだわり、比較的価格を高め設定している商品もあったことから、必ずしも思うような結果を得られなかったようだ。「島の素材を使用した商品を幅広く展開することができれば、喜界島自体の認知度や

素材の良さを広められる」（喜界島、甲原和憲さん）、「出来上がった商品のみならず、製造工程なども動画で流したりしてより商品の特徴がわかりやすくする工夫が必要かと思いました」（沖永良部島、前田勇治さん）と、商品の背景にある物語や風土も伝えようとする動きに期待したい。

また、来場者（バイヤー）としては、仕入れた商品をできる限り長く活用したいという思いがあるようで、「常温商品は賞味期限があまり長くないため、業務用冷凍果汁、ピューレや業務用ジュエラートなど比較的賞味期限の長い商品の提案に力を入れたい」（徳之島、秦良亮さん）といった、賞味期限に関する感想もあった。

しまづくりキャラバン2023福岡会場 開催概要

日時

2023年7月26日(水)

場所

福岡 PayPay ドーム(福岡市中央区)

出展展示会

ヤマエグループ総合展示商談会

参加団体(14団体)

江田島市商工会(広島県江田島市)／岩崎農園・中吉丸(同大崎上島町)／合同会社積善ファーム(愛媛県上島町)／いはいま大島七福芋ブランド推進協議会(同新居浜市)／福岡市玄界島集落「さわらめしの素加工部」(福岡県福岡市)／小呂島しまづくり協議会(同)／NPO法人黒島観光協会(長崎県佐世保市)／ごとう農業協同組合(同五島市)／(株)おおいた 姫島(大分県姫島村)／SONTAR GARDEN(鹿児島県喜界町)／(株)Keithland(同)／徳之島町総合食品加工センター美農里館(同徳之島町)／合同会社TSUMUGU(同和泊町)

来場

約700社



広島県大崎上島の岩崎亜紀さん(右、岩崎農園)、中村文子さん(中吉丸)。消費者に手にとってもらいやすい可愛いパッケージデザインを心がけている。



牡蠣加工品などを取り扱う広島県江田島の山本江利子さん(Shirasuya e's)、松本博之さん(江田島市商工会)。



NPO 法人黒島観光協会として参加した長崎県佐世保市の磯和良臣さん(中央)と、地域おこし協力隊の榎本秀実さん、宇戸莉央さん。



鹿児島県喜界島の甲原和徳さん(左、Keithland)と園田裕一郎さん(SONTAR GARDEN)。すでに大手セレクトショップでも取り扱いのある商品もあり、農産物を魅力ある加工品にして展開している。

しまづくりキャラバン2023大阪会場 開催概要

日時

2023年9月6日(水)～7日(木)

場所

インテックス大阪(大阪市住之江区)

出展展示会

フードストアソリューションズフェア2023

参加団体(12団体)

小笠原村商工会(東京都小笠原村)／沖島漁業協同組合(滋賀県近江八幡市)／中原観光農園(広島県大崎上島町)／ナオライ株式会社(同県市)／小豆島調理食品工業協同組合(香川県小豆島町)／株式会社カローレ小豆島(同土庄町)／あおき農園(愛媛県上島町)／にはま大島七福芋ブランド推進協議会(同新居浜市)／ごとう農業協同組合(長崎県五島市)／(株)おおいた姫島(大分県姫島村)／合同会社 TSUMUGU(鹿児島県和泊町)／えらぶ特産品加工場(同知名町)

来場

合計15,561人



鮎寿司、佃煮など湖魚の加工品をPRした沖島漁業協同組合の皆さん。



唐辛子やレモンなど小笠原の原材料を使用した「小笠原ブランド」の商品をPRする小笠原村商工会のブース。



上島町佐島に移住して就農、レモンや特産の紅まどんなを生産するあおき農園の青木俊樹さん(右)。



「シマ桑茶」の販路拡大に努める鹿児島県知名町の窪田貴史さん(右、知名町農林課えらぶ特産品加工場)。一般社団法人シマスキ代表理事として地域づくり活動にも携わる。



鹿児島県沖永良部島の前田勇治さん(合同会社TSUMUGU)と、奄美群島での商品開発などを支援する福澤文香さん(株式会社iroiro)。

加えて、改正食品衛生法に基づいて HACCP (ハザップ) に沿った衛生管理が求められる中で、島での衛生管理の実態についても問い合わせがあった。

小規模な島々も

堂々と島をアピール

「NPO法人黒島観光協会」(長崎県佐世保市黒島)は初参加。「黒島の集落」は平成三〇年に世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つで、佐世保市で唯一の世界文化遺産の島である。協会は島の情報発信や、来島者への体験プログラム提供などを担っており、今回は島産品を販路拡大、島のPRを目的に参加した。島で手づくりしている「ふくれまんじゅう」のほか、島育ちのメークイン(じゃがいも)、かんころ餅を持参し、来場者に試食を提供。「同じ商品でも各地域で呼び方も

違うことがある。商品を本気で売りたいなら、他の地域へ出向いて学ぶ必要もある」(黒島、磯和良臣さん)と、今後の展開に意欲をみせる。

昨年に引き続き出展した「七福芋本舗」(愛媛県新居浜市大島)は、希少な島産の七福芋(白いサツマイモ)を菓子原材料などとして使うことを提案。「収穫量が少ないので、価値を見出しなくてもえれば値段を上げてもいいかもしれない。一方で少しでも収穫量を増やしたい」と篠原真理さん。キャラバンへの参加回数を重ね、ブース設計にも毎回試行錯誤が見られる。一五度を超える糖度を持ち、雑味の少ない七福芋の活用により島の活性化に寄与してほしい。大阪会場には「沖島漁業協同組合」(滋賀県近江八幡市沖島)が参加。大阪から最も近い島の一つであるが、島ファンが多く来島する「アイランダー(東京開催)」とは異なり、もともと島に対する関心が薄い来場者にとっては、沖



福岡会場はドームで開催。場内ブースでインタビューを受けると大型スクリーンに映されるため、来場者への効果的なPRにつながった。

島を知ること自体が新しい発見となったことだろう。ブース装飾にも工夫を凝らし、多くの来場者が足を止めていた。「誰に向けて販売しているのか、商品をつくる目的はなにかを明確にして事業改善したい。今後は業者に卸せるような商品提案もしたい」と、同漁協の川瀬明日望^{あすみ}さん。地理的に近いこともあり、バイヤーにはぜひ特産品をきっかけに直接島を訪れるなど、島への関心を深めてほしい。

皆さん、キャラバンへのご参加を！

しまづくりキャラバンは、来年度以降（二〇二四年、二五年）もフードストアソリューションズフェア（FSSF）への出展を予定している。離島関係ブースの拡大を計画しており、島の製品のPRにとどまらず、島自体の認知向上を目指した展示にしたいと考えている。

展示商談会と聞くと「大量生産、安定供給が難しい。商品がないので参加



盛況の大阪会場。従来よりもブースを広げたが、来年度以降は参加団体数増にあわせて、さらにスペースを拡大する予定。

ができない」と思うかもしれないが、こういった会への参加は「島のいいもの」を外に知ってもらう絶好のチャンスである。他のブースの出展者や来場されるバイヤーから、ヒントと刺激を受けるなど事業拡大に資する場にもなり得る。離島の産品が一堂に会するブースとして、特産品はもちろん、島々の自然や文化などの多様な魅力の発信、島と島の連携などの創出につながることも期待している。北海道から沖縄県までの気候も文化も異なる多様な島々が、日々チャレンジを繰り返していることを「天下の台所」大阪でどんどんPRしていただきたい。

次のキャラバンは二〇二四年九月四日（水）～五日（木）の二日間。参加団体に対しては、申請に応じて助成金も準備していますので、ぜひ積極的なご参画をお願いいたします。もしご不明な点などがあればお気軽に事務局までご相談ください。

（佐伯）